

支倉常長フェロー報告書

提出日 2008年11月28日



| | | |
|------------------|--|----------------------|
| 申請者 | 氏名 | 内田康雄 |
| | 所属・職 | 薬学研究科薬物送達学分野・大学院生 D1 |
| 出張期間 | 2008年11月14日 ～ 11月22日 | |
| 渡航先 | Atlanta, Georgia, USA | |
| 渡航目的 | 学会参加) 共同研究のための留学・() | |
| 発表演題名あるいは共同研究課題名 | Reconstruction of P-glycoprotein function at blood-brain barrier based on its absolute expression amount and <i>in vitro</i> transport activity | |
| 得られた成果など | <p>11/16-11/20 に、支倉常長フェロー支援プログラムによる支援のもと、アメリカ合衆国のアトランタで開催された 2008 American Association of Pharmaceutical Scientists (AAPS) annual meeting and exposition に参加し、研究成果の発表を行った。参加人数 1 万人を超える大規模な国際学会で発表を行うことで、多くの国の研究者と密度の濃い 1 対 1 のディスカッションを行うことができ、基礎研究・新薬開発における自分の研究の立ち位置を深く理解することができると同時に、自分の研究について貴重な意見を頂戴することができた。また、世界最高レベルの発表を拝聴することで、薬剤学の最新の現状を把握することができるとともに、自分の研究を遂行する上で必要な新しい知識、技術および考え方を学ぶことができた。これらのことは、学内あるいは国内で研究を行い論文を読んでいるだけでは得られない貴重な体験であった。</p> <p>また、本学会参加は、トレーニングを行ってきた英語コミュニケーション能力を発揮するよい機会となった。2 年前、同学会に参加した際、発表や懇親会場で多くの研究者とディスカッションや交流する機会があったにもかかわらず、未熟な英語能力のために、十分なコミュニケーションをとることができなかった。しかし、今回は、2 年間の英会話トレーニングの成果が実を結び、納得が行くまで自分の研究についてディスカッションを行うことができ、また自ら他の研究者の発表に対して積極的に質問し、ディスカッションを行うことができた。さらに、懇親会でも、顔なじみの研究者からそうでない研究者まで、多くの方と交流を深めることができた。特に、フランスの中枢のトランスporter 研究および薬物速度論研究の第一人者である prof. Jean-Michel Scherrmann には、我々の研究に対して大変興味を持って頂き懇親会で交流を深めることによって、今後さらに共同研究を進めることとなった。結果として、本学会参加によって今後の研究において重要な人的ネットワークを広げることができ、研究を飛躍的に加速させるよい機会となった。</p> <p>最後に、このような貴重な機会を与えてくださった支倉常長フェロー支援プログラムに心より御礼申し上げます。</p> | |
| | | |

- ※ 帰国後 10 日以内に報告書を提出してください。HP に掲載することがあります。
- ※ 可能であれば顔写真、学会風景写真を添付してください。
- ※ 用紙が不足する場合は、適宜加えてください。

